

フライドチキンの摂取頻度が高いと心臓血管病による死亡リスク上昇

揚げ物が死亡率に及ぼす影響については議論されている。本研究では、揚げ物の総摂取量・種類別摂取量と死亡率との関連について検討した。

1993～1998年に米国の40施設において行われた **Women's Health Initiative** 研究に参加した50～79歳の閉経後の女性106,966例を対象に、前向きコホート研究を実施した。主要評価項目は、全死因死亡、心臓血管死亡、がん死亡とし、2017年まで追跡した。追跡期間中に31,558例が死亡した。揚げ物の総摂取量についてみると、1日1皿以上を摂取している群は非摂取群と比べて、多変量補正後ハザード比が全死因死亡1.08、心臓血管死1.08であった。また、フライドチキンの摂取量についてみると、1週間に1皿以上を摂取している群は非摂取群と比べて、全死因死亡1.13、心臓血管死亡1.12であった。魚介類のフライの摂取量については、ハザード比は全死因死亡1.08、心臓血管死亡1.13であった。がん死亡については、揚げ物総摂取量および種類別摂取量との関連はみられなかった。

したがって、米国の閉経後女性において、フライドチキンや魚介類のフライの摂取頻度の高さが全死因死亡および心臓血管死亡のリスクを上昇させることが示された。

出典：British Medical Journal. 2019; 364: k5420.